

## カメラトラップ法による上野村の哺乳類

姉崎智子（群馬県立自然史博物館）

### 1 はじめに

森林に生息する生物多様性の保全を考えるには、保全の対象となる地域の生物相を把握し、基盤となるデータ整備を行う必要がある。しかし、これまで上野村においては夏目（1999）を除いて生物相の把握を目的とした調査は行われておらず、生息する生物に関する情報は少ないのが現状である。本調査では、上野村における中大型哺乳類相を明らかにすることを目的として、カメラトラップ法による調査を実施した。

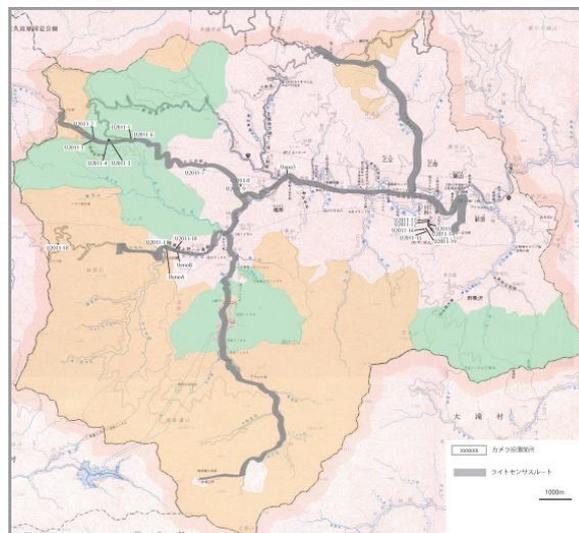


図1 調査対象地区とカメラ設置位置

### 2 調査地と調査方法

調査は上野村において行った（図1）。植生は針葉樹や広葉樹の人工林、広葉樹二次林などから構成される。25台のカメラを林内に設置した。使用したのは、自動撮影カメラ Trophy Cam (Bushnell社製)である。予備調査も含め、カメラを設置しはじめた2008年9月から、最後にデータ回収を行った2013年11月までの間、カメラ交換時に撮影終了日時を記録し、回収までにバッテリーが終了している場合は、最後の写真が撮影された時点をもとに最終撮影日時とした。撮影されたデータをもとに、撮影頻度指標（RAI）を算出した。

### 3 結果

今回の調査で確認された哺乳類は、ニホンジカ、ニホンカモシカ、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザル、ハクビシン、タヌキ、アナグマ、キツネ、テン、イタチ、ウサギの他、ネズミ類であった。ニホンジカが ueno1 を除くすべての地点で撮影され、とくに U2011-12、U2011-13、U2011-14、U2011-15、U2011-16、U2011-17 で多かった。イタチは、UenoB のみで撮影された。

シカ、カモシカ、サルについて月別撮影頻度と時間帯別の動物の撮影回数をみると、シカは年間をとおして撮影されたが、季節的増減が認められた。また、シカは日の出をさむ5時にピークがあり、日没前後の17時、18時台に多く撮影された。カモシカは、撮影頻度は低いものの通年をとおして撮影されたが、2012年1月、2012年7月、2012年8月、2012年9月、2013年3月、2013年6月、2013年7月で比較的高い頻度で撮影された。カモシカは、17時にピークがあり、21時、22時代に多く撮影されたが、日中も比較的撮影される傾向にあった。サルは7月に多く撮影される傾向にあり、時間帯では4時から19時の

間に撮影された。

#### 4 まとめ

今回の調査では、予備調査も含めると約5年間にわたってカメラを設置した。このことにより、年別、季節別、時間帯別など、撮影頻度による動物の活動状況の定量的な解析を行うことが可能となった。シカの撮影頻度が通年を通して高く、シカに比べてカモシカ、ツキノワグマなどの撮影頻度が低い傾向は全県的にも共通した傾向であり（姉崎，未発表）、今後の森林環境の変化とあわせてモニタリングを継続していく必要がある。

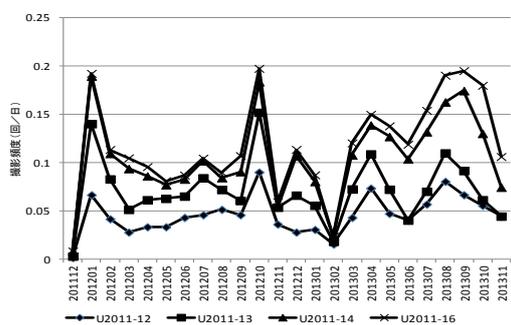


図2 シカの月別撮影頻度

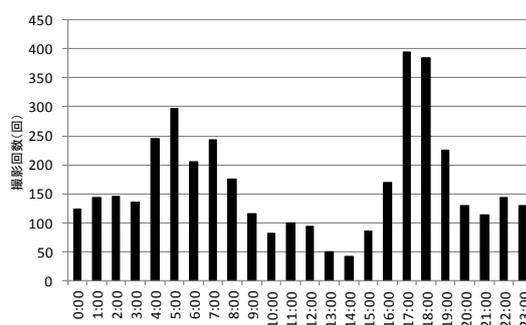


図3 シカの時間帯別撮影回数

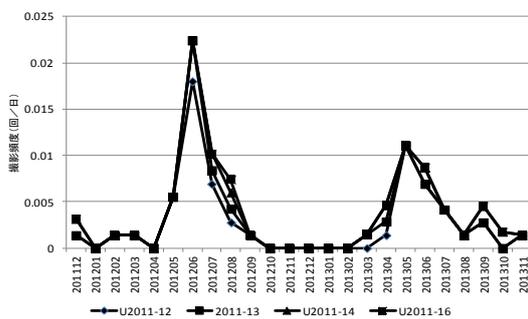


図4 カモシカの月別撮影頻度

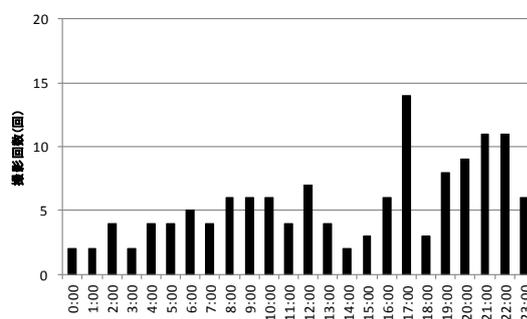


図5 カモシカの時間帯別撮影頻度

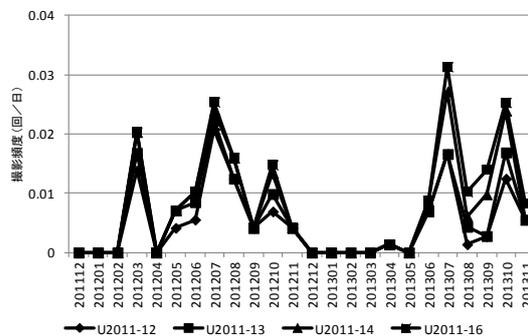


図6 サルの月別撮影頻度

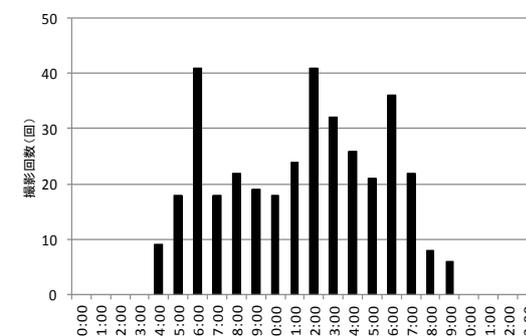


図7 サルの時間帯別撮影頻度

キーワード：カメラトラップ、上野村、哺乳類、シカ、カモシカ、サル